

事業活動報告書

(平成30年1月1日から平成30年12月31日まで)

特定非営利活動法人 国際青少年連合

1 事業の成果

- (1) 国際協力ネットワークの強化、特にアジア各国との連携を組み、国際青少年交流活動を展開し海外へ向けて情報発信、特に韓国IYF活動との連携・強化を継続し、またアジア地域の中国、ベトナム、タイ・フィリピン・ミャンマーまた、ボリビア、ウクライナとの連携が取れた。
- (2) 国際カンファレンスとして、「IYF MindConference」を位置づけ、「青少年・若年層の自殺問題+心の世界」とテーマに厚生労働省、東京都、教育委員会また、各国駐日大使館(25カ国)の後援の基に開催。
- (3) 国際文化交流活動を推し進める中、「IYF海外ボランティア学生」が一同に会し、「IYF PeaceFestival」「老人ホーム慰問ボランティア」「Cantata/ミュージカル創作」等の青少年修練活動を実施とした。
- (4) 団体活動を行うことで海外を含め、青少年交流活動組織と国際文化交流の繋がりが出来た。

2 事業の実施に関する事項

事業名	内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
国際青少年交流事業	「IYF MindConference」の実施。 国際交流事業の体験及び実施。 テーマ：マインドの変化が人生を変え、マインドの変化が世界を変える。	平成30年9月10日～13日	日本IYF主催・代々木/国立初音ビル記念青少年総合センター	実務ボランティア60名	日本：220名 韓国：200名 中国：40名 ミャンマー：30名 タイ・ベトナム・フィリピン他：60名、 総計参加者：550名	16,300
国際青少年交流事業	日韓高校生国際交流会 韓国リンカーンスクール学生来日	平成30年9月3日～7日	日本IYF主催	実務ボランティア60名	東京の高等学校(公立、私立)との国際交流会11校で実施。	200
国際青少年交流事業	IYF海外ボランティア体験報告会「IYF PeaceFestival」の開催。広島市が後援	平成30年2月27日	広島/平和公園フェニックスホール	実務者ボランティア40名	各国大学生中心の参加公演者12カ国・420名が日本	4,500
青少年教育修練事業	老人ホーム慰問ボランティア参加修練活動の実施。(日・韓・中・アメリカ・タイ・フィリピン・ベトナム、ボリビア等ボランティア学生参加)	平成30年1月～12月	東京都内・埼玉等で40回実施。	実務者ボランティア20名	ホーム施設：20か所訪問 延ボランティア参加：240名	150
青少年教育事業・マインド講演会	IYF/マインド講演会の実施	平成30年1月～12月 回開催	IYF/IMEI共催 東京・静岡・埼玉・山形にて開催	実務者ボランティア6名	120名参加	150
青少年グループ活動支援事業	IYF学生グループ国際交流MT活動の支援事業実施。 IYFMCの結果報告及び海外ボランティア体験者報告会	平成30年11月20日	東京/地域センター他	実務者ボランティア12名	大学生中心の参加者40名	100
海外ボランティア事業	海外での国際ボランティアの募集/広報/養成/派遣事業の実施。日本文化を海外へ繋げる活動を展開	平成30年1月～12月 ネットワーク創造	IYF/JSC共催	実務ボランティア10名	2018年度日本海外ボランティア参加者6名	200

平成30年度 特定非営利活動に係る事業 会計収支計算書

平成30年1月1日から平成30年12月31日まで

特定非営利活動法人
国際青少年連合

(単位：円)

科 目	金 額	
(経常収支の部)		
I 経常収入の部		
1 会費・入金収入		
入金収入		
会費収入	1,122,000	
2 事業収入		
(1) 国際青少年交流事業 (マインドカンファレンス、) 、ピースフェスティバル他・参加費)	8,514,800	9,636,800
3 補助金等収入		
地方公共団体補助金収入	0	
民間助成金収入	0	
4 寄付金収入		
(1) 会員収入	7,700,000	
(2) 民間団体・個人	1,500,000	
(3) I Y F 韓国	2,827,957	
(4) 募金活動	0	12,027,957
5 その他収入		
雑収入	0	
利息収入	0	
任意団体からの繰入金	0	0
6 その他の事業会計からの繰入 経常収入合計	0	21,664,757
II 経常支出の部		
1 事業費		
(1) 国際青少年交流事業費 (マインドカンファレンス、 ピースフェスティバル他)		
人件費	0	
会場費	4,789,501	
宿泊費	4,860,280	
食事費	4,660,815	
移動交通費	2,841,649	
謝礼費	1,409,860	
広告宣伝費	1,238,549	
出版関連費	446,930	
事務所経費・事務用品費	1,370,573	
		21,618,157
2 管理費		
役員報酬	0	
給料手当	0	
什器備品費	0	
光熱水費	0	
消耗品費	0	
通信運搬費	0	
印刷製本費	0	
租税公課	0	0

	経常支出合計		21,618,157
	経常収支差額		46,600
III	その他資金収入の部		
1	固定資産売却収入	0	
	その他の資金収入合計	0	
IV	その他資金支出の部		
1	固定資産取得支出	0	
	その他の資金支出合計	0	
	当期収支差額		46,600
	前期繰越収支差額		-916,473
	次期繰越収支差額		-869,873
	(正味財産増減の部)		
V	正味財産増加の部		
1	資産増加額	0	
	当期収支差額(再掲)		
2	負債減少額	0	
	増加額合計		0
VI	正味財産減少の部		
1	資産減少額		
	当期収支差額(再掲)(マイナスの場合)		
2	負債増加額	0	
	減少額合計		
	当期正味財産増加額(又は減少額)		46,600
	前期繰越正味財産額		-916,473
	当期正味財産合計		-869,873

(注記) 備考の5を参照

(備考)

- 1 用紙の大きさは、日本工業規格A列4番とする。
- 2 タイトルの年度の後の空欄部分には、「特定非営利活動に係る事業」、又はその他の事業を行う場合にあっては、「その他の事業」と記載し、事業毎に区分して別業として作成する。
- 3 定款上、「その他の事業」に関する事項を定めている場合は、前事業年度に実施しなかった場合でも収入支出0円の収支計算書を作成する。
- 4 「事業費」とは、法人の事業の実施のために直接要する支出で、管理費以外のものをいい、会計処理上は、事業の種類毎に区分して記載する。事業費の例としては、「〇〇事業費」(注 当該事業の実施のために直接要する人件費・交通費等の費用が含まれる。)というように事業毎に記載する。
- 5 重要な会計方針等を計算書類に対する注記を欄外下に記載する。
(重要な会計方針とは、原価償却の方法及び資金の範囲等をいう。)
- 6 管理費の支出規模(管理費の合計)は、総支出額(事業費及び管理費の総計)に占める割合の2分の1以下であることが必要。(事業費>管理費)
(詳しくは東京都における運用方針参照のこと。)
- 7 特定非営利活動促進法第5条第1項により、その他の事業において収益を生じたときは、これを特定非営利活動のために使用しなければならないとあるので、その他の事業の収益は特定非営利活動に係る事業会計に全額繰り入れることが必要。
(詳しくは東京都における運用方針参照のこと。)

平成30年度 会計貸借対照表

平成30年12月31日現在

特定非営利活動法人 国際青少年連合

(単位:円)

科 目	金 額	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金預金	80,127	
未収入金	0	
流動資産合計		80,127
2 固定資産		
土地	0	
建物	0	
車両運搬具	0	
固定資産合計		0
資産合計		80,127
II 負債の部		
1 流動負債		
短期借入金	0	
未払金	0	
流動負債合計		0
2 固定負債		
長期借入金	0	
退職給与引当金	0	
固定負債合計		0
負債合計		0
III 正味財産の部		
前期繰越正味財産	-916,473	
当期正味財産増減額	46,600	
正味財産合計		-869,873
負債及び正味財産合計		-869,873

平成30年度 会計財産目録

平成30年12月31日現在

特定非営利活動法人 国際青少年連合

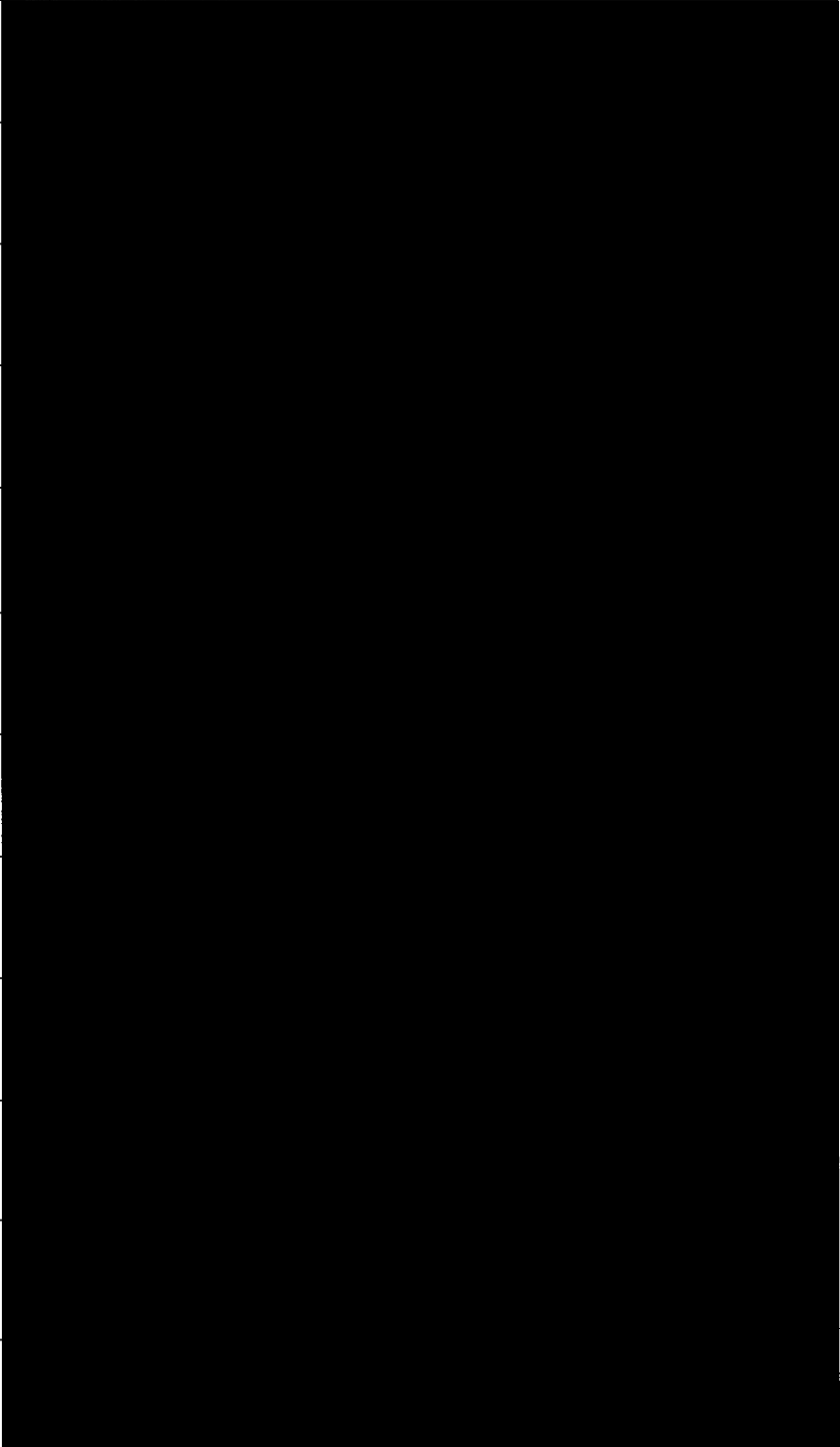
(単位：円)

科 目	金 額	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金予金		
現金	80,127	
普通預金 三菱東京UFJ銀行 大塚支店		
未収入金		
未収会費 (年度名)		
流動資産合計		80,127
2 固定資産		
土地 所在/㎡	0	
建物 所在/㎡	0	
車両運搬具 乗用車/台	0	
固定資産合計		0
資産合計		80,127
II 負債の部		
1 流動負債		
短期借入金 銀行/支店	0	
預り金 職員に対する源泉所得税	0	
未払金	0	
流動負債合計		0
2 固定負債		
長期借入金 銀行/支店	0	
退職給与引当金	0	
固定負債合計		0
負債合計		0
正味財産		80,127

社員のうち10人以上の者の名簿

（就任期間：平成30年1月1日から平成30年12月31日まで）

特定非営利活動法人 国際青少年連合

	氏 名	住 所 又 は 居 所
1	菊池 七郎	
2	天達 泰郎	
3	青木 寿一	
4	小野 隆司	
5	大塚 文好	
6	立河 義行	
7	朴 桂彦	
8	佐藤 順子	
9	朴 政姫	
10	宋 丁順	
11	孫 鎬順	
12	上田 聡	